

山椒甲佐産地化プロジェクト 山椒で地域を元気に！

香辛料や漢方薬など広く使われる山椒の産地化を目指す宮内地区山椒生産組合が、地域活性化につなげようと植樹を始めて約4年。同組合は町や漢方薬大手「(株) ツムラ」と連携し、産地化への一歩を踏み出しました。今後、町内全域での生産拡大を模索し、地域活性化につなげていきます。



宮内地区山椒生産組合
佐藤 直樹 さん

■宮内地区復興のために

平成28年4月の熊本地震、同6月の豪雨災害で被害を受けた宮内地区の農地で新たな特産物づくりを進めるために平成31年3月に宮内地区山椒生産組合が発足しました。令和2年1月に地域に元気

を取り戻そうと集まった地元農家20人でぶどう山椒の栽培を本格的に開始。県の補助事業を活用し、ぶどう山椒の苗木400本を植栽。4年目を迎え、栽培面積は、1・3ヘクタールまで拡大し、収穫量も増加しています。

現在、町内の事業所の協力でぶどう山椒の苗木を増やす活動も始まっており、町全体で山椒栽培の取り組みが広がってきています。



宮内地区山椒生産組合
田上 菊夫 組合長

■高齢化が進む中山間地に最適な山椒に活路

山椒は宮内地区で古くから栽培されてきましたが、生産農家は年々減少傾向にありました。

直径5ミリの実を付ける山椒は実が軽いため、高齢者

でも手作業で収穫でき、里山で課題になっている鳥獣被害が比較的少ないです。

また、山椒の需要は高まっているなか、国産の山椒の収穫量は少なく、国内に競合する産地が少ない点などに勝算を見出しました。

手探りで始めた山椒栽培が少しずつ軌道に乗ってきました。この山椒事業が地域の復興や耕作放棄地の改善につながれば嬉しいです。



▲宮内地区で収穫された山椒



▲平成28年6月豪雨災害で被害を受けた宮内地区の家屋



▲包括連携協定を結んだ（左から）宮内地区山椒生産組合の田上組合長、甲斐町長、ツムラ生薬本部の平手本部長



▲令和5年夏に大きな実を付けた宮内地区の山椒

山椒の産地化へ 宮内地区、ツムラ、町が連携協定

11月12日（日）町生涯学習センター・ホールで甲佐町と宮内地区山椒生産組合と株式会社ツムラとの包括連携協定締結式が行われました。

3者は宮内地区だけでなく町内全域に山椒の栽培を広げ、地域活性化につなげる目的として包括連携協定を締結しました。

今後は協定書に基づき、本町の被災農地や耕作放棄地の活用や、山椒やミシマサイコなどの生薬栽培を通じた新たな地域雇用の創出に向けて取り組んでいきます。

甲斐町長は「町も協力し、山椒の収穫の拡大や産地化を進めて、地域活性化や雇用促進の増加に期待したいです」と話しました。

町内説明会に多くの参加者

12月6日（水）町生涯学習センター・ホールでツムラ株式会社との山椒契約栽培などに関する説明会が実施され、町内の農家など約40人が参加しました。

同説明会は、町内の山椒とミシマサイコの生産拡大を目的にツムラ株式会社と宮内地区山椒生産組合が共催。山椒の栽培方法や適地などの説明が行われました。



▲山椒栽培の注意点を説明する宮内地区山椒生産組合の佐藤直樹さん

町では山椒の栽培や商品開発を応援しています！



▲ろくじ館で販売している山椒を使った加工品

■山椒を使った商品が町内各所で！
山椒は本町特産のアユやウナギとの相性が良いだけでなく、近年は西洋料理やスイーツなどにも利用の幅が広がっており、地域活性化のスパイスとして期待が高まっています。
宮内地区山椒生産組合では、栽培と並行して、加工品やメニュー開発にも着手。町の委託を受け、宮内地区で栽培された山椒や他県から取り寄せた山椒で町内の飲食店などと試作を行ってきました。現在、甲佐町農産物直売所「ろくじ館」では、宮内地区の加工グループが作った粉末状の山椒や山椒を使った塩、ラー油

などの加工品を販売中。町内の飲食店には、山椒入りのシフォンケーキを提供する店や、照り焼きチキンやカルボナーラ、カクテルなどに山椒を使用する店などもあります。ぜひ、お店で買い求めください。

■山椒やミシマサイコを栽培しませんか？
町では山椒を栽培する農業関係者を応援しています。

株式会社ツムラと包括連携協定を締結し、契約栽培による山椒やミシマサイコなどの生薬生産の推進を図っています。山椒栽培に興味がある人は町農政課にお尋ねください。

【お問い合わせ先】

町農政課

☎096-234-1176

(内線154)